

17. 食味が良く結実の安定した黄肉モモ新品種 「つきあかり」の特性

1. 背景とねらい

現在，県内で栽培されているモモの主要品種は，「あかつき」，「白鳳」，「清水白桃」など，果肉色が白いモモが多いため，外観などに特徴のある食味の良い品種が販売上必要である。また，産地では，花粉を有し生理落果の少ない，結実の安定した品種が求められている。そこで，(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成されたモモ新品種「つきあかり」の特性を明らかにする。

2. 成果の内容

- 1) 「つきあかり」は，系統名「筑波 121 号」として第 8 回モモ系統適応性・特性検定試験に供試され，本県も含めた各県の試験結果をもとに 2008 年に品種登録申請された。
- 2) 果皮色および果肉色は，「あかつき」と異なり，黄色である（図 1）。
- 3) 成熟期は，「あかつき」と比較し 6 日遅い（表 1）。
- 4) 糖度は「あかつき」に比べて 2 度高い（表 1）。
- 5) 果実重は 224g 程度であり，「あかつき」と比較してやや小さい（表 1）。
- 6) 結実は花粉を有しているため，良好であり，生理落果も少ないために，生産性が安定している（表 1）。
- 7) 以上の結果から，「つきあかり」は，果皮および果肉が黄色で特徴があり，良食味の中生モモ品種として有望である。

3. 利用上の留意点

- 1) みつ症は，「あかつき」と同等に発生しやすい。

(果樹研究部)

4. 具体的データ



図 1 「つきあかり」の着果状況

表 1 「つきあかり」の特性

品種名	糖度 (° Brix)	酸 (pH)	果実重 (g)	収量 (kg/樹)	みつ症	花粉	生理的 落果	核割れ	開花盛期 (月/日)	収穫盛期 (月/日)
つきあかり	13.0	4.5	224	35.9	0.9	有	少	少	4/6	7/27
あかつき	10.9	4.5	258	36.3	0.7	有	少	少	4/8	7/21

注) データは東広島市安芸津町における 2004 年～2007 年の平均値
 対照品種「あかつき」は、中生モモの代表的品種
 みつ症は発生程度の指数 (0:無,1:微,2:少,3:中,5:甚)として評価